

ジャンルを超え響き合う

タイムスホール復活5周年記念

那覇市久茂地のタイムスビルにタイムスホールが11年ぶりに復活して5年目の今年、5th Anniversary（記念）と位置付けた「響演 KYOEN」伝統と創造 シリーズを同ホールで開催、3月末から5月にかけて実施するシリーズ3公演を紹介する。毎年実施するレギュラー公演を拡充したほか、芸術ジャンルを超えて共演する新たな試みも目玉だ。

響演 KYOEN

伝統と創造

音楽旅行 沖縄から世界へ

5月20日 三浦一馬バンドネオン

芸術選賞受賞者と共演



クラシック公演の打ち合わせに臨む三浦一馬さん=2017年4月、東京

5月20日は「音楽世界旅行 三浦一馬バンドネオンコンサート」。日本を代表するバンドネオン奏者三浦一馬さん(27)が、沖縄タイムス芸術選賞で受賞したクラシック、琉球芸能の実演家とジャンルを超えて共演する。三浦さんは「バンドネオンと言えばタンゴ」という固定観念のある中で、果敢に挑戦していくコンサートにしたい」と力を込める。主催は沖縄タイムス社。アコーディオンから派生したバンドネオンは、パイプオルガンの代用でドイツで生まれ、南米アルゼンチンのタンゴ音楽で花開いた。「持ち運びができるパイプオルガン」とも位置付けられ、陰のある哀愁が漂う音色が特徴だ。

コンサートは副題にもある「沖縄クラシック界の気鋭と共に贈るバンドネオンを巡る旅」の通り、アルゼンチンタンゴの中心的な楽器バンドネオンが、音楽で各地を旅する企画。

コンサートは副題にもある「沖縄クラシック界の気鋭と共に贈るバンドネオンを巡る旅」の通り、アルゼンチンタンゴの中心的な楽器バンドネオンが、音楽で各地を旅する企画。

三浦さんと共演する眞田身演奏家は、渡久地さんのほか、ピアノの高良仁美さん、同大賞、チエロの土地さん、琉球舞踊家で眞流流佳音の会師範の喜納かおりさん、同奨励賞、琉球古典音楽野村流保存会師範の仲村逸夫さん、同共演する。

クラシック、タンゴ、琉球音楽までさまざまな音楽、舞踊が融合する舞台を前に、三浦さんは「チャレンジングなステージ。今回の公演(音楽旅行)がたどり着く先(目的地)は、僕が一度も降り立ったことがないところかもしれない」と、響演を心待ちにしている。

入場料は前売り・一般3500円(税込)、当日は4000円(税込)、学生は2千円。



バンドネオン・三浦一馬提供、フォト：エンタテイメント

三浦一馬さん 1990年生まれ。バンドネオンの世界的権威ネストル・マルコーニに師事。2008年第33回国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝。

主なプログラム

- ・バッハ作曲「主よ、人の望みの喜びよ」(ドイツ)
- ・ドビュッシー作曲「月の光」(フランス)
- ・ファリャ作曲「スペイン民謡組曲より」(スペイン)
- ・ラフマニノフ作曲「ヴォカリーズ」(ロシア)
- ・「タンゴの歴史」よりカフェ1930、フェノスアイレス夏・冬(アルゼンチン)
- ・沖縄民謡(鶴見幸代編曲)／浜千鳥ほか

コラボ 未知の体験

ピアノやチェロ、フルートなどが単体で演奏と共演したことはあるかもしれないが、バンドネオンを交えた三線とのコラボは未知の体験。「旅情」をテーマとする「浜千鳥」の音楽が、物悲しいバンドネオンの音色や洋楽器とどのように溶け合うのか、楽しみです。



仲村逸夫

新しい挑戦楽しみ

雑踊り「浜千鳥」は振りが多く踊りだけに、こねり手、枕手など少ない所作を通じて表現しなければならぬ。奥の深い演目だと思う。洋楽と三線そして琉球舞踊がどんなハモニーを生み出せるか。新しい挑戦を今から楽しみにしている。



喜納かおり

共演の舞台に興奮

若くしてピアソラ・コンクールで準優勝した三浦一馬さんと沖縄で共演できるの話聞き、とても興奮した。大人っぽい中にも、みずみずしさを感じさせる音楽を奏でるのが三浦さんの魅力だと思う。沖縄の舞台は2年ぶり。高良さん、渡久地さんとの演奏も楽しみにしている。



上地さくら

鶴見さん存在光る

「音楽旅行」の経由地として沖縄にも立ち寄り、琉球芸能の踊り手、歌手の方との共演が実現する。洋楽と琉球芸能をつなぐ役目となる作曲家・鶴見幸代さんの存在が光る公演。沖縄に約10年間滞在し、古典音楽にも精通する鶴見さんの編曲にも注目してほしい。



渡久地圭

編成独特で面白い

柔軟性があり、熱いハートを持つ三浦一馬さんとの共演は昨年の東京での音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」以来。バンドネオンは演奏家の息遣い、感情がダイレクトに伝わる楽器。本公演は編成が独特で面白い。共演者どつくりあげる「音楽旅行」がどうなっていくか、ワクワクしている。



高良仁美

お問い合わせは文化事業本部へ

「響演 KYOEN」シリーズに関する問い合わせ・入場券の購入は沖縄タイムス社読者局文化事業本部、電話098(860)3588(平日午前9時半から午後5時半まで)。